

(様式2)

2019

年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570102143		
法人名	社会福祉法人 坂井輪会		
事業所名	グループホーム 穂波の里		
所在地	新潟県新潟市西区新通4727番地		
自己評価作成日	令和 1年 8月 31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	2019年11月9日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・その人らしさを大切に、入居者の主体性を尊重した自立支援を行なっている。  
・毎日の食事の献立は決まっておらず、その都度入居者と献立を考え出来る限り調理して頂いている。食材の買い物も入居者と近隣のスーパーに出掛けている。  
・個々の生活スタイルで暮らして頂けるよう、生活歴を把握し習慣や好みを大切に支援している

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、地域住民の熱心な活動により平成5年に設立された社会福祉法人が、地域のニーズに応えるべく平成13年に開設したグループホームである。法人設立以来、地域住民の協力を得ながら地域との関係を大切にし、地域に根差した事業を展開している。

事業所は、周囲を田園に囲まれた敷地に特別養護老人ホームや通所介護事業所、ケアハウスなどの法人施設が立ち並ぶ一角に位置している。事業所の前の川を隔てて住宅街が広がっており、事業所の存在は住民にも十分に周知されている。

開設以来、「その人らしさを支えます」という理念を念頭に職員はケアを実践しており、職員間の意思疎通を円滑に図りながら利用者へサービスを提供している。今年から「入居者の会」を立ち上げ、利用者がお互いに敬意を払うなどのルールを利用者同士で話し合っ決めて、外出行事など事業所での暮らし方に要望や意見を伝えるなど、利用者が主体的に事業所で暮らしていくことをより良いものにするための仕組みがつけられている。職員の言葉かけも、利用者が自己決定できるように常に選択肢を示すことが日常となっており、一人ひとりの暮らし方への配慮がきめ細かく行き届いている。

毎年の自己評価や外部評価に取り組むにあたっては、自らのサービスを振り返り、項目ごとに理念に沿ったサービスが実践できているか謙虚に見直し、サービスの質向上に真摯に努めている。今回の外部評価結果についても運営推進会議で利用者を交えて検討する予定である。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と援助方針をもとに、事業所として「地域の中で家庭的な雰囲気を大切にその人らしくお互いを支え合って生活していけるように」という理念を掲げている。管理者と職員はその理念を共有し、毎月の会議や新人職員研修時にも理念や援助方針に基づく支援と異なっていないか振り返り、検討して実践につなげている。	その人らしい生活を支えることを理念の中心に置き、家族、地域、事業所が一体となって利用者の暮らしを支えていくことに取り組んでいる。毎月の部署別研修やケアカンファレンスの中で、利用者が主体的に生活できるように暮らし方についての検討を行い、理念の実践につなげている。理念を玄関などに掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な買い物で地域に出向いたり、近隣の保育園とも交流の機会を持っている。地域の健康まつりに参加し施設紹介や入居者の作品展示を行ったり、法人の盆踊り大会では、出店で入居者自ら販売を行ったり踊りに参加し、多くの地域住民との交流に繋がっている。	地域の要望により設立された法人であり、事業所であるため、地域住民が事業所に興味を持って積極的に関わっており、その関係はより深くなっている。顔を合わせた際の挨拶や野菜の差し入れ、草刈りなど日常的な交流が毎日のように行われている。今年度は、地域住民から梅が届き、道具を借りて梅干し作りに取り組んだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの広報誌を地域の診療所や法人内施設の掲示板、ホームの玄関に掲示し、地域の方々からホームの活動や認知症の方への理解を得ている。また、実習生や学生ボランティア、施設見学の受け入れを積極的に行い、認知症の方々の理解や支援方法を伝えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、職員、地域包括支援センター職員、民生委員、ボランティア穂波のスタッフが参加し、2ヶ月に1度開催している。ホームの現状や課題、行事について情報の共有に努め、利用者や参加者の意見を聴きながら、より良いグループホーム運営が出来る様に努めている。生活の場であるリビングにて会を開くことで、利用者もリラックスし意見を述べられている。	運営推進会議は2か月に1回、利用者も参加して事業所内のリビングで開催している。会議では、事業所の行事や日頃の様子について報告を行っている。民生委員やボランティアから、地域行事について情報提供があったり、周辺地域にある神社や公園の様子についての話題提供により、外出の検討を行うなどケアに役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者と区役所を訪問し広報誌や行事の案内、運営推進会議の議事録を届け、運営推進会議の参加を呼び掛けるなど関係作りに努めている。また介護相談員の方にサービスや取り組み状況を実際に見て頂き、アドバイスや意見を頂きながらより良いサービスが提供できるように努めている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、その際に利用者の暮らしぶりや事業所の様子を説明している。運営推進会議の会議録を利用者と一緒に区役所の担当者へ届けに行くなど、積極的に協力関係を築くように取り組んでいる。また、毎月来訪する市の介護相談員から得た情報も部署会議で検討し、ケアに役立てている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で年4回身体拘束防止委員会を開催し拘束予防に努めている。ホームでも年1回身体拘束に関する研修を実施し職員の理解を深め、部署会では、日々の援助に問題点はないか意見交換し、身体拘束につながらないように努めている。	身体拘束をしないケアの実践のため、意識を高く維持することを目的に職員は年1回外部研修に参加して事業所内で伝達研修を行っている。また、法人でも年4回身体拘束防止委員会を行っており、話し合われた内容を部署別研修時に職員に周知している。スピーチロック(言葉による行動制限)やベッドの配置など職員が気になったことを部署別研修で話し合い、不適切なケアが見過ごされることがないように取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で高齢者虐待防止関連法についての学習を行い理解を深め、虐待が見過ごされることがないように意識を高めるとともに、部署会議でも日頃の支援に問題がないか確認を行い虐待の防止に努めている。	市が主催する外部研修に職員が参加して部署会議で伝達し、関連法について理解を深めている。職員がケアに行き詰まらないように「なんでもノート」に悩みなどを書き出し、職員同士で意見交換が積極的にできるように図っている。部署会議やカンファレンスでケアについて話し合いを行っており、職員同士がお互いの悩みや思いを共有することで虐待防止の徹底に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で成年後見制度や自立支援事業についての学習を行い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明を丁寧に行っている。その他、ホームで起こり得るリスクや具体的な支援方法、医療機関との連携体制についても詳しく説明し、利用者やご家族の要望・不安に感じている事等疑問点を引き出しながら、ご理解納得頂いた上で契約している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から希望や意見を引き出せるよう一つの支援を大切にしながら利用者に関わっている。利用者は意見や思いを伝えられる場として入居者の会や運営推進委員会に参加している。ご家族には家族会を通じて意見を頂いたり、普段の来園時には利用者の状況報告を行い、質問や相談に応じたりして意見や要望を引き出すよう努め運営に反映させている。入居時等に第三者委員会の紹介も行い、玄関には意見箱を設置している。	利用者が主体的な生活を送るために利用者同士が自ら事業所での暮らし方について話し合う「入居者の会」を発足し、毎月、行事や役割などについて意見交換、ルール作り、事業所への提言を行っている。また、今年度には「家族会」を立ち上げ、家族が意見を訴える機会を増やしている。家族へは意見箱や第三者委員の活用を説明しているが、面会時や連絡をする際に意識して聞くことを大切にし、意見を言ってもらえるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部署会議にて意見を発言する機会を設けている。また、職員より意見や提案があった際、いつでも提起出来るようノートを用意しており、提起されたことを反映・改善している。	運営やケアに関する職員の意見やアイデアは、管理者へ相談したり、「なんでもノート」に書き溜められ、部署会議で話し合いを行っている。気付いたことはなんでも話し合うことが浸透しており、職員同士が円滑な意見交換を行っている。また、事業所内で解決できない内容は、施設長に相談し検討する体制ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、月1回管理者とミーティングを行っている。職員の勤務状況を把握することで職場環境等を整備するよう努めている。また、職員が向上心を持って働けるよう、研修・学習会等への参加を促したり。開催情報を知らせている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で就業年数が同じ職員同士が、切磋琢磨して成長しあえる学習の場を提供している(ディスカッション、他 部署研修、実践研修、事例報告等)。また、学習講演会 や研修会の開催を知らせ、希望者が参加できる機会を設けている。また、日々の業務で気づいたことを声に出し共有し、職員同士高めあい成長しあえる関係作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡会議において地域の事業者同士で会議を通じて繋がりを持ち、互いに相談しあえるネットワークづくりをしている。また、研修会に参加し学習するなかで、それぞれの施設状況の様子を話したり、意見交換する等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談で生活の様子を聞き取り、利用者の思いや要望を確認している。また、入所後には日々の詳細な様子を観察、職員間で共有し、会話や表情を通じて困っていることや不安なこと、要望等がないか思いを傾聴し、利用者の安心できる環境と関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の説明を丁寧に行い、ご家族の思いや要望をしっかり聞き取っている。入所後は訪問に来られた際や電話等で利用者の様子を伝えるとともに、施設に対する要望や思いをその都度確認し、一つ一つ丁寧に対応させて頂いて信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活状況やサービス利用状況、本人家族の要望等を踏まえ、どのような生活を望むのか、必要とされる支援は何かを見極め、提案し了承頂くよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、その経験から得た知恵を学ばせて頂いたり、職員は利用者一人ひとりの得意な事を把握し、利用者がそれを活かしながら生活の主体者として経験や知恵、技術を発揮され、誇りを持って暮らしていけるよう努めている。また、月1回「入居者の会」を開き、職員と利用者とでホームでの暮らしについての話し合いの場を設け、伝えたいこと、考えていること、困っていることなど意見交換を行い、互いに気持ちよく生活していけるよう努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も利用者を支える大切な支援者と考え、ホームでの暮らしぶりを伝える広報誌を家族に郵送している。面会の時に細かく利用者の様子を伝えたり、家族の思いを伺っている。その他に定期的に個々の生活の様子を書面にて郵送し伝えている。受診の対応は基本的に家族にお願いし来訪の機会を設けたり、家族との外出・外泊の支援など、利用者との家族の絆を大切にしながら、連携し共に利用者を支えていく関係づくりに努めている。	入居の際に、家族の役割として受診支援を依頼している。家族の面会時には日常の暮らしぶりを伝え、家族に事業所での様子を知ってもらえるように努めている。また、担当職員が3か月に1回、写真などをおり交ぜた手紙を送り様子を伝えている。今年度には家族会が発足し、また、担当者会議にも家族から参加してもらうよう取り組んでおり、本人と共に支えていく関係づくりに努めている。	今年度が発足した家族会や担当者会議などに家族が参加した際には、家族も本人の生活を支えていく立場であるということや役割について話合う機会を持ってほしい。さらに、家族の役割を介護計画に位置付けることで、家族からも主体的に関わってもらえるような仕組みづくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が馴染みの美容院に行けるように関係継続の支援を行なっている。 入居前のかかりつけ医を入居後も継続して受診できるよう支援を行なっている。	入居時に「バックグラウンドシート」を利用者と職員が協力して作成し、馴染みの場所や人の情報を集めている。山登りが趣味など暮らしの中で聞き取った情報を更に探って場所などを具体的に特定して出かけるなど、昔から大切にしてきた思い出が事業所での暮らしでも記憶として残るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々が、得意なことを活かし活動できるよう配慮し、活躍の様子を日々の会話の中でさりげなく他利用者に伝え、お互い相手を認め合い尊重し合えるような雰囲気づくりに努めている。「入居者の会」を通じ、お互いが協力し、関わり合い、支え合って、気持ちよく生活していけるよう話し合うことで、更により良い関係を築いていけるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の思いを大切に安心して次のサービスが受けられるように出来る限り分かり易く説明しながら相談に応じ、支援に努めている。併設の施設へ移られた後も本人・家族には声を掛け、必要に応じてフォローに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月入居者の会を開催し、施設理念を入居者一人ひとりと共有するとともに思いや暮らし方の希望、意向の把握にも努めている。表現が難しい場合は、表情や行動の変化、生活歴等も重視し検討している。また、介護計画作成時には面談し意向の把握、再確認をしている。	利用者の思いや意向、意見を「入居者の会」で利用者同士で話し合っており、実現に向けて毎月のケアカンファレンスで支援方法を検討している。担当職員は、一人ひとりの個性を大切にし、利用者と一緒に衣替えや居室の整理を行う際に思いや意向について聞き取るように努めており、何気ない一言にも深く掘り下げて把握するようにしている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、本人、家族、サービス支援者からこれまでの暮らし等を伺いその把握に努めている。また、職員は意識的に会話等で得た情報を整理しフェイスシートに追記し定期的にシートの更新にも努めている。	入居前に自宅を訪問し、暮らし方や生活環境の情報を集めている。集めた情報はカンファレンスで検討し、編み物、歌、習字など、これまでの趣味が継続できるように支援している。毎年の誕生日には、担当職員が本人の嗜好に合わせてクラシックのCDや外出用帽子などサプライズのプレゼントを準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員主導の先入観を持たず、本人のペースを大切に支援にあたり、一人ひとりの現状把握に努めている。また、記録や会議等で情報共有にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は日頃から本人、家族等とより良く暮らすための課題とケアのあり方について意見を聞くように努め、それらを加味しモニタリング・アセスメントを行っている。介護支援専門員は計画作成時には改めて本人、家族に意向を伺い担当職員と計画案を作成しカンファレンスを行い現状に即した介護計画を作成している。	利用者の思いや意向をまとめ、計画作成担当者が担当職員と話し合っって原案を作成し、担当者会議で家族の意見を反映させ、同意を得ている。毎月モニタリングを行い、計画の変更が必要な際は、現状に即した計画に作り直している。	介護計画は利用者本人のものであるから、利用者が担当者会議に参加することにより自分自身の暮らし方を決定づけることができるのではないだろうか。事業所が利用者の主体的な暮らしを大切にし、利用者一人ひとりの生活の各場面で実践を重ね、目指していることから、介護計画作成の各プロセスに利用者が参加できる仕組みづくりを検討してほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりのケアの実践や気づき、工夫を個々の支援経過記録に記入し職員間の情報共有に努めながら会議等で意見や提案を出し合い実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせ、往診の利用導入や受診の付き添い、訪問理容への切り替え、美容院との協力体制作りをする等、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーを利用し、毎日の食材や入居者が必要とする物を購入することで地域との繋がりを大切にしている。法人の盆踊り大会では、グループホームとして店を出店し、大学や専門学校などボランティアを募り協力を得ながら地域住民とのつながりの機会を創出している。神社や観光農園、水族館等にも出向き、楽しみのある生活を送れるように努めている。また実習生の受け入れや職場体験などの受け入れも積極的に行い地域資源の一つとして活用して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家人と希望を伺い相談しながら、かかりつけ医による継続的な医療が受けられるように体制を整えている。基本的に受診対応は家人にお願いし、日々の様子や受診に必要な情報を伝え情報の共有に努めている。必要に応じて書面や職員が同行して伝えるようにしている。また急な状態変化があった際は、かかりつけ医に指示を仰ぐと共に受診の付き添いを行っている。	これまでのかかりつけ医を主治医とし、家族が受診支援を行うことを基本としている。受診の際は日常の様子がわかるように書面にして家族からかかりつけ医へ渡してもらっている。血圧や便秘など早急にかかりつけ医に相談が必要な場合は直接連絡をとって対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	基本的に情報や気になることは個々のかかりつけ医に直接連絡し相談に乗って頂いている。必要に応じて指示を頂き対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はADL表など支援方法に関する情報を伝え情報の共有につとめている。出来る限り病院へ出向き利用者の状態に応じて医師や看護師、ソーシャルワーカーと連携し退院に向けて相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に係る指針を伝え同意を得ている。また利用者の状況に応じて本人や家人の思いを探り、話し合いをしながら意向の確認を行っている。状態変化に戸惑う家人に対しては思いに寄り添いながら状況にあった福祉サービス等の情報提供を行っている。	入居時に、事業所の体制として重度化や終末期のケアを行わないことを指針を用いて説明し同意を得ている。本人の日常の様子を面会時や担当職員の手紙で家族へ伝えており、要介護3になった時には特別養護老人ホームへの入所申請を助言している。食事の準備やリネン交換、洗濯に支援が必要になった場合は、利用者や家族の希望に沿って、適切な場所への住み替えの支援を行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月ヒヤリハットや事故の検証を行い事故防止に努めている。また利用者理解を深め、予測を持ちながら援助が出来るように努めている。年1回救急法や感染症の対応をロールプレイを通して研修を行っている。	救急法や感染症対策など、想定される急変や事故などに対する実技を交えた研修を年1回実施している。マニュアルも整備されており、利用者の急変時などには管理者や他の職員へ連絡して速やかに対応することを徹底し、慌てずに確実なケアができるように体制を整えている。事故やヒヤリハットは報告書にまとめて部署会議で話し合いを行っており、今後は検証まで取り組む予定である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回昼間と夜間を想定した避難訓練を行い、地域の方々に協力が得られる体勢を整えている。防災機器の取り扱いの学習会を行い適切に使用出来る様に努めている。	自治会長を組み入れた災害時の連絡網が整備されており、有事の際は、自治会長から地域の組織へ連絡が届くようになっている。また、避難時には法人の各事業所から職員の応援が得られる体制もある。年2回行う昼夜想定火災時の避難訓練の際は、自治会長や法人職員の協力を得て行っている。尚、今年度は水害時の避難訓練を計画している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりを尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけを心掛けている。言葉かけ・支援方法について、部署会議や日頃において検討・話し合いを行い、実践している。	入室時のノックや、誘導が必要な場面で大きな声で呼ばない、などプライバシーの確保を意識している。毎年、市が主催する外部研修で接遇について学んでおり、部署研修で伝達研修を行っている。研修を通じて指示的な言葉かけをケアから排除することに取り組んでおり、ケアにおいては利用者が判断・選択できるような言葉かけが浸透している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望が聞かれた際、実現出来るよう支援している。日常生活にて意見や希望が言いやすい雰囲気作りに心掛け、話を傾聴することで思いを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの希望や気持ちを尊重し、体調を考慮した支援を実践している。言葉かけや支援方法が抑制することにならないよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの習慣や希望に応じて、ヘアクリームやスキンケアが出来る基礎化粧品の購入を支援している。身だしなみを気にされる気持ちが継続されるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の食事や生活にて入居者の食事の好みを探っている。食事作りにて、冷蔵庫の中の食材や家庭菜園の収穫物を利用者に見てもらい、献立を共に決めている。入居者の力や性格に応じて、調理・盛り付け・お茶入れの声掛け支援を行っている。	地域住民や家族から差し入れのあった野菜で、季節にあった郷土料理を食卓に並べている。献立は利用者と職員が毎食ごとに相談して一緒に食事作りをしており、利用者は準備や後片付けなどそれぞれが自分の力を活かしながら参加している。職員は利用者と一緒に食事を摂りながら午後の予定を話し合うことが日課になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事量や水分量・献立を記録している。入居者一人ひとりの状態に合わせた食事量・食べやすさや補食等を工夫し、調理・盛り付けを行っている。食事以外でも水分を自由に摂取できるよう麦茶を用意し、水分摂取を促している。また、定期的に栄養士から食事のアドバイスを貰い、取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛け支援を行っている。義歯を装着している入居者には、個々に応じた義歯の洗浄を声掛け・支援している。また、必要に応じてご家族と相談の上、歯科の定期検診と口腔内の清掃を支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使い入居者一人一人の排泄パターンを確認しながら排泄リズムに合わせた支援を行っている。排泄の間隔が空いた際など状況に応じてトイレ誘導を行っている。必要に応じて水分摂取の促しや便秘薬等調整を行い、気分良く生活が出来る様に努めている。	自立した生活が送れることをケアの基本に挙げ、トイレやポータブルでの排泄を支援しており、現在はオムツ使用の利用者はいない。利用者自身が混乱せずにトイレを使えるよう、便座を赤いテープで囲んだり、トイレの戸を減らすなど、カンファレンスで一人ひとりの認識や能力を見極め、ケア方法を話し合い工夫して取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を行っている。日常でも散歩・園芸・買い物等に行く事で体を動かす機会を設けている。食事のメニューを記録しバランスの取れた食事を心掛けると共に、水分を十分取って頂けるよう促し便秘予防に努めている。便秘状況を把握し主治医に相談のもと、必要時には便秘薬を調整し排泄コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は設けず、希望時や入浴間隔の空いている方からお誘いし対応・支援している。また、入浴を好まれない方に関してはスムーズに入浴して頂けるような声掛けを職員間で情報交換しながら工夫し支援している。季節に合わせ、菖蒲湯や柚子湯等の変わり湯の入浴も楽しんで頂いている。	週2回以上の入浴を基本に、毎日午後の好きな時間に入浴できるように支援している。利用者へは個別に用意したシャンプーとボディーソープの容器の違いを伝えるなどにとどめ、極力見守りによる対応で自立に向けた支援をしている。入浴を好まない利用者へは、足浴やシャワーなども勧めている。入浴がくつろぎの時間となるように、気の合う利用者同士の入浴や同性介助、オレンジの皮など活用した変わり湯など、入浴を楽しくできるように工夫した支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者のペースで休息就寝して頂いている。必要に応じて気持ち良く眠れるために足浴を行ったり習慣で就寝前にテレビを観られる方は体調に影響しない程度に過ごして頂き入眠されるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	家族や医療機関と連携し、入居者の情報把握に努めている。服薬ファイルと合わせて薬の内容を確認すると共に、薬セットや誤薬・内服忘れのないようダブルチェックも徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を把握し、料理や歌・裁縫など『入居者の会』等でお聞きした情報をもとに、個々の得意な事や入居者一人一人に合った役割や張り合い、楽しみが持てるように支援している。また、入居者と相談しながら季節行事や個別での外出等を企画し、気分転換の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各入居者の状態に応じ、周辺の散歩や買い物等、日常的に外出できる機会を設けている。花見や花火といった季節行事だけでなく、入居者と相談し、公園やおやつ外出などにホーム全体で外出する機会も持っている。また、個々の希望に沿った外出やご家族の協力による外出など個別の支援を行っている。	天気のよい日は事業所周辺を散歩したり、運営推進会議で情報を得た公園や神社にも出かけている。利用者全員で出かける紅葉狩りや地域の祭りのほか、一人ひとりの希望に応じて出かける機会を設けている。毎日の買物ではついでにコーヒーを飲んで一息つくなど外出が楽しくなるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の食材の買い物で入居者の能力に応じて支払いまで行って頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自ら電話が出来る支援体制はある。 個人宛てに来た手紙(年賀状など)はハガキを購入したり投函する支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には利用者が描いた絵画や書、季節感のある飾りつけを工夫している。リビングダイニングは暖色系の照明で落ち着ける雰囲気であり、大きなソファで寛ぎながら、利用者の方々がいつでも自由にお茶を楽しめるようになっている。窓からは、入居者が育てている野菜や花などの四季折々の風景が楽しめる。トイレは広く暖房設備があり、綺麗な写真を飾るなどして落ち着ける空間を心掛けている。	食堂や廊下などの窓から外の景色を眺めて季節感を感じることができる。一番景色の良い所にはソファを設置し、利用者同士や職員も交えて外の様子を話題にして過ごしている。食堂のテレビ前に置かれたソファでは、利用者が集ってお茶を愉しみながら一緒にくつろいでいる。また、事業所内には、メダカ、収穫したカボチャなどが随所に置かれ、利用者や訪問者の目を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内には、ソファ席だけでなく、食事の席の椅子や、畳の小上がりには座布団などがあり、利用者はひとりであったり、気の合う方同士でそれぞれが自由に寛いでいる。廊下からみえる椿園をソファで眺めたり、玄関椅子、ホールから見える景色、台所のちょっとした椅子など、共有空間の中にも利用者ごとに居心地の良い場所があり、思い思いの場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室環境は畳とフローリングがあり、生活習慣に応じ対応している。タンスやテーブル、テレビ等の家具類は、なるべく利用者が使い慣れた馴染の物を持ち込んでもらい、利用者やご家族と相談しながら、居心地良く過ごせる環境作りを支援している。また、職員と利用者が相談しながら好みの写真やメッセージカードなどを飾る工夫をし、温かい雰囲気であらげる空間作りを行い、利用者が落ち着いて過ごせるよう努めている。	入居前に自宅訪問し、家具や物品など使い慣れたものを持ち込んでもらうことで馴染みの暮らしが継続できることを説明し理解を求めている。担当職員は、居室が利用者にとって落ち着いて過ごしやすい空間となるように、家族と相談しながら家具の配置を自宅と同じようにするなど工夫して取り組んでいる。居室で家族等と面会をする利用者が多く、事業所で作った作品などを見ながらゆっくりできるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	各居室に表札を付けたり飾りをつけるなど、自身の居室が分かりやすいように工夫している。またトイレの場所を大きく表記したり浴室にはのれんを付けたり、見て分かるように環境を整えている。洗濯機や電気ポットなど電化製品には使用手順を①→②といったシールを貼り操作しやすいように工夫している。洗濯干しは状態に合わせて椅子を用意したり、見守りや対応をしている。台所の収納庫にも調味料、包丁、鍋、布巾等シールを貼ることで自立した生活を送れるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				